
現実王子と妄想王女

ぷらむ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現実王子と妄想王女

【Nコード】

N1831Y

【作者名】

ぷらむ

【あらすじ】

恋という感情を味わったことのない鈍感少女、さつきが繰り広げるちよつと笑い(?)がまじっちゃってるラブストーリー！

ファイルを取りに行ったのに私のハートが盗られちゃいました

始まりは、ある水曜日の放課後。

交差点みたいになってる廊下でボタン…っていうシチュエーションじゃないけれど。

初めてだ。こんな気持ちになったのは。

わたしの頭の中で警報が響いてる。

危険です。危険です。

これ以上目を合わせ続けるとハートを奪われる恐れがあります。
十分注意してください。

時は、さかのぼること5分前。

私の名前はさつき。

友達から頼まれて教室にあるファイルを取りに行った。

だけど、ファイルがなかった。

よく探したけどやっぱり無くって、諦めて戻ろうと思い始めた途端に頭になにかのせられた。

おそろおそろ振り返ってみたら、あの状況になった。

彼は眠そうな顔をしながら探していたファイルを渡してくれた。

「あの…そのっ…えっと、ありがとうございますっ」

しどろもどろになりながらもお礼の言葉を言って…というか叫んで私は廊下に行き行って行った。

たった2分程度の会話だったのに…

（顔、まだ赤い。）

さつきは鏡をみてそう思った。

あの事を思い出すたびに顔がほてってくる。

これじゃ、きりが無いわ…。早く忘れようって思っても

「あれ？さつきちゃん、顔赤いよ？熱？」

ファイルを取って来てくれと頼んだ友達…亜弥に言われてしまう。
「アンタのせいだよ。と言えるはずもなく、

「ううん、ちがうよ。亜弥。私は元気だよ」

という風に誤魔化してしまう。

そしてまた6行前から繰り返ししてしまうのだ。

この感情が何なのか、さつきはまだ解らなかった。

でも、みんなは解っているよね？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1831y/>

現実王子と妄想王女

2011年11月3日17時16分発行